全国の自動車会議所の動き

警視庁新宿署が新宿通りで交通安全イベント開催

新宿アルタ前で「スケアード・ストレイト交通安全教室」を実施

当会議所も協力団体として参画

警視庁新宿警察署は10月14日、東京・新宿区の新宿通りで交通安全イベントを開催し、多くの来場者で賑わった。会場は、新宿通りの新宿スタジオアルタ前～伊勢丹前までの公道。メイン会場の新宿アルタ前ではスタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」が行われたほか、伊勢丹前までの通りにパトカー（フェアレディーZ）、白バイ、消防車、先進安全装備車両などが展示された。はしご車の搭乗体験会も実施されるなど、子どもから大人までが楽しめるイベントとして開催された。

メイン会場で行われた「スケアード・ストレイト」とは、事故現場の再現による交通安全教育の手法の一つで、小中学校、高等学校、地域などの交通安全教室で広く採用されている。実際に起きた交通事故の模様や、事故につながる危険な行為、事故の発生しやすい場所・状況などを再現。プロのスタントマンがその場で実演し、事故の状況や原因を具体的に伝え、事故の恐怖を目の当たりにすることで、交通ルールを守ることの大切さを実感させることを狙いとしている。本イベントでは自転車と歩行者間、クルマと歩行者間の事故の模擬シーンをスタントマンが実演し、交通安全に対する啓発活動を行った。

当会議所も協力団体としてこのイベントに参画し、トヨタ、日産、ホンダの先進安全装備車両などを出展。スタッフが、来場者に安全装備やクルマの性能を説明するなどしてイベントに協力した。

新宿アルタ前ではスタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」を実施（写真上）。当会議所も協力団体として参画し、先進安全装備車両などを出展（写真下）

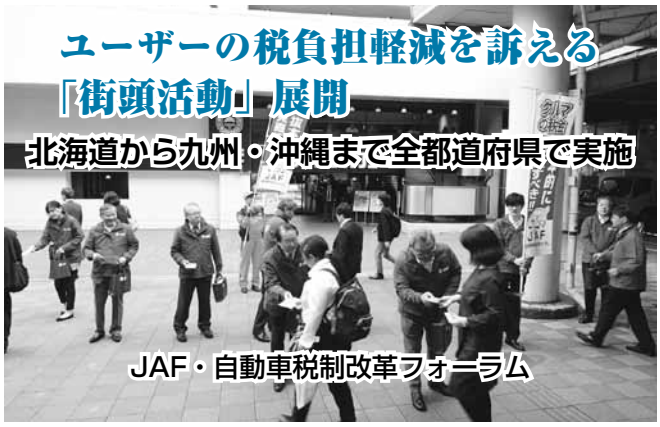
第101回全国自動車会議所専務理事会が10月23日、24日の両日、東京都内で開催された。会議には、全国各自動車会議所から23名が出席し、日本自動車会議所より最近の事業活動や当面の主要課題に関する説明の後、意見交換が行われた。

会議は、日本自動車会議所の山岡正博専務理事の挨拶より始まり、畠山太作常務理事が同会議所2019年度上期の主な事業内容について総括的に報告した。

続いて、各委員会活動や交通安全活動、自賠責の取組状況等とともに、HP展開やペーパレス化の推進等、日本自動車会議所の今年度の取り組みについて担当者から報告された。

後半は、次回以降の本専務理事会について、議論され、次回、来年２月の開催地は、引き続き調整を行うこと。続いて、来年秋は、北陸近畿地区、再来年2月は、東日本大震災から10年を迎えるにあたり、宮城県で行うことが了承された。

最後に、各自動車会議所の収支改善施策や課題について関係する出席者より説明いただき、活発な意見交換が行われ、会議は終了となった。



日本自動車連盟（JAF）はじめ自動車関係21団体で構成する「自動車税制改革フォーラム」は、10月初旬から自動車ユーザーの税負担軽減を訴える街頭活動＝写真は10月24日、東京・JR田町駅前＝を展開している。街頭活動は、大勢の人が集まる駅前をはじめ商業施設やイベント会場などでも行われ、今年も北海道から九州・沖縄まで全都道府県で実施する予定。JAFを中心としたフォーラム団体のスタッフらが「みんなで考えよう！　クルマの税金」と書かれたチラシやウエットティッシュを配布しながら、ドライバーや道行く人たちにユーザーの税負担軽減・簡素化などを訴えている。

昨年に与党が取りまとめた2019年度税制改正大綱では、自動車税創設以来の恒久減税をはじめ、新たに導入される環境性能割の１年間の軽減措置、エコカー減税・グリーン化特例の延長などが決定し、「車体課税の見直しについては、今般の措置をもって最終的な結論とする」と記されている。しかし、フォーラムでは、依然として自動車に課せられている税金を負担と感じているユーザーが98％に上ることから、今年度もユーザーと一緒になって発信していく活動を継続、引き続き全都道府県で街頭活動を行っている。

街頭活動はユーザーへクルマの税金についてアピールできる機会であるため、今回はチラシに今年10月からスタートした新たなクルマの税制のポイントも掲載するなどして、ユーザーの理解向上にも努めている。

入館14法人による交流会に160人が参加

初開催のボッチャ対抗戦などで大いに盛り上がる

日本自動車会館運営委員会

日本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車会館運営委員会（委員長＝永塚誠一日本自動車工業会副会長・専務理事、事務局＝日本自動車会議所）は10月10日、入館法人間の相互交流・親睦を目的に、同会館くるまプラザ会議室で日本自動車会館交流会を開催し、160人が参加した。

当日は、恒例となったジャンケン大会に加え、目玉アトラクションとして、パラリンピック競技種目でもある「ボッチャ」大会を開催。会館内の団体混合の６チームが２つの予選リーグで総当たり戦を行い、「自動車リサイクル促進センター・日本自動車連盟」チーム、「日本自動車研究所・日本自動車会議所」チームがリーグ戦でそれぞれ２勝を挙げ１位となり、決勝に進んだ。決勝は接戦の末、「日本自動車研究所・日本自動車会議所」チームが勝利し、初代チャンピオンに輝いた。

恒例となったジャンケン大会（写真上）。混合団体チームによる白熱したボッチャ対抗戦（写真下）

ボッチャに選手として参加した人からは「他企業の方と話す機会が持て、協力し合うことができ、とても良かった」、応援していた人からは「ボッチャを初めて見たが、ルールもそれほど難しくなく、楽しく応援できた」、「試合が白熱し、盛り上がった」

等の声が多数聞かれた。「多くの方々にボッチャを知ってもらう機会ができ、パラリンピックに少し寄与ができ、今年の交流会はとても価値があった」との声もあった。

交流会は今回で５回目の開催となり、入館各法人から実行委員を募り、実行委員会が企画・事前準備から運営までを担当した。特に、ボッチャ大会を初めて交流会で行うにあたり、各団体での出場選手選出や、事前合同練習会の開催等を実行委員が先頭に立って行った結果、昨年の130人から来場者も増え、会館内の交流促進につながった。年１回の交流会でだけでなく、ボッチャ専用大会を望む声も出るほど、選手だけでなく応援した人もボッチャの面白さに魅了された様子だった。

石川ＰＡでディーゼル車検査

違反車両はわずか１台

東京都が周知活動

東京都環境局は10月7日、中央自動車道の石川パーキングエリア（PA）で、トラック、バスなどディーゼル車の車両検査を実施するとともに、運転手にチラシを手渡すなどディーゼル車規制の周知活動を行った。同時に、一般ドライバーに対して、環境に優しい運転「エコドライブ」をPRした。

自動車排ガスによる大気汚染を改善するため、九都県市（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市）が10月をディーゼル車対策強化月間と位置づけている活動の一環。粒子状物質の排出基準を満たさないディーゼル車をゼロにするための取り組みで、各自治体は強化月間中にそれぞれ集中的に車両検査とディーゼル車規制の周知活動を実施した。

都は調査員19人を動員して石川PAの上下線のそれぞれで、駐車しているディーゼル車を検査。同時に、運転席にいる運転手に、ディーゼル車規制に関する各種チラシやステッカー、タオルなどのPRグッズを手渡した＝**写真左**＝。上り線188台、下り線128台の合計316台を検査。このうち運転手が不在の車を除く150台にPRグッズを配布し、ディーゼル車規制の周知活動を行った。

また、PA施設の前にエコドライブをPRする幟を

令和元年「秋の叙勲・褒章」

旭日重光章

元石油連盟会長の天坊昭彦氏

藍綬褒章

ダイハツ工業会長の三井正則氏

はじめ当会議所関係者多数が受章

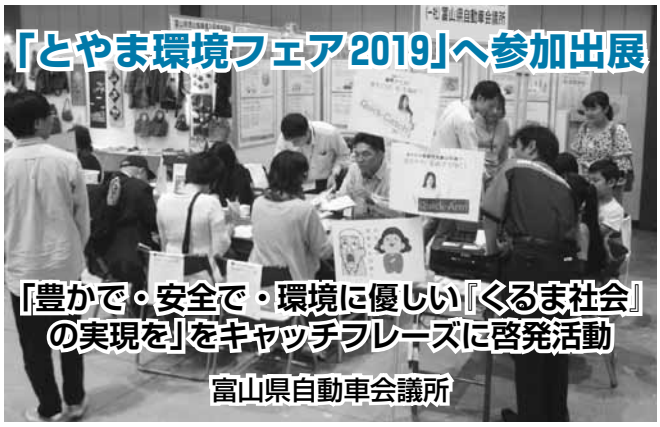
令和元年秋の叙勲ならびに褒章で、日本自動車会議所の会員団体・企業関係の方々が多数、晴れの栄誉に輝かれた。

叙勲では、元石油連盟会長で元当会議所評議員の天坊昭彦氏が旭日重光章を、大阪自動車会議所副会長、全日本トラック協会副会長の辻卓史氏が旭日中綬章を、住江織物会長兼社長の吉川一三氏、日野自動車販売店協会会長で当会議所評議員の上野弘文氏が旭日小綬章を、元自動車事故対策機構理事長の金澤悟氏、元日本自動車販売協会連合会常務理事で元当会議所特別委員会委員長の杉山篤史氏、首都高速道路社長の宮田年耕氏が瑞宝中綬章を受章された。

褒章ではダイハツ工業会長の三井正則氏が藍綬褒章を受章された。

立て、休憩に立ち寄る一般ドライバーに、チラシやハンドタオルなどが入ったグッズを手渡しながらエコドライブを呼びかけた**＝前ページの写真右＝**。同グッズは上下線合わせて300セットを配布した。

１都３県の条例により、2003年10月から排出規制不適合車の運行が禁止されて以来、こうした周知活動が奏功したこともあって、違反車両は年を追うごとに減少しており、今回の検査では違反車両は１台だけだった。　〔東京都自動車会議所〕



富山県自動車会議所は10月5日、6日の両日、富山市の富山産業展示館（テクノホール東館）で開催された「とやま環境フェア2019」を後援するとともに、参加出展した。富山県自動車関係団体等を会員として構成されている「富山県低公害車導入促進協議会」と連名で屋内外展示場にブースを設け、「豊かで・安全で・環境に優しい『くるま社会』の実現を」をキャッチフレーズに総合的な啓発活動を行った。前日の台風の影響が心配されたが、さわやかな秋晴れでのスタートとなり、小さな子どもを連れた家族などが多く来場し、2日間で11,500人と、多くの来場者で賑わった。

「とやま環境フェア2019」は、「水と緑に恵まれた快適な環境をめざして～次世代につなごう！エコなくらし（ミライのための「COOL　CHOICE」）～」をテーマとして開催されており、今年から賢い選択を促す「COOL　CHOICE」や「持続可能な開発目標（SDGs）」をその趣旨に取り入れて展開し、当会議所は「環境にやさしい自動車（次世代自動車）の普及」、「自動車から排出されるCO2の削減に寄与するエコドライブの推進」等を図るための啓発を目的として、出展参加をした。

屋外会場では、「次世代自動車の展示」として、トヨタの「ミライ」（FCV）、ホンダの「クラリティ」（FCV）、日産の「リーフ」（EV）、三菱の「アウトランダー」（PHEV）を富山トヨタ自動車㈱、㈱ホンダ自販タナカ、富山日産自動車㈱、㈱日産サティオ富山、㈱高岡三菱自動車販売の協力により出展した。次世代自動車というだけでなく、最近注目される災害時において利活用される車を通しての新しい動力の重要性などが、初展示車種もありさらなる来場者の人気・関心へとつながった。

屋内会場では、当会議所が継続して行っている「エコドライブ」意識調査、日本自動車連盟（JAF）の「よい子のECOカード」発行に加え、日本自動車会議所の協力を得て配置した動体視力・俊敏性を測定する「クイックキャッチ」「クイックアーム」の体験や「エコドライブに関するリーフレット、ステッカー、ティッシュ等の配布による啓発」などを行った。

動体視力・俊敏性を測定する「クイックキャッチ」「クイックアーム」の体験では、来場した高齢者の関心が強く、増加傾向にある高齢者の交通事故防止に向け、「エコドライブ」とあわせ安全運転に繋がる啓発コーナーとなり、子どもから大人まで幅広い年齢層に人気・関心を集め、大盛況のうちに啓発活動を終えた。

今後も当会議所は、このフェアに参加し、持続可能な車社会の発展に寄与すべく、「豊かで・安全で・環境に優しい『くるま社会』の実現を」をキャッチコピーとして、諸々の啓発活動をより一層展開していくことにしている。

富山県自動車会議所は10月26日、富山市の富山県運転教育センターで「エコライフ車塾」2019を開催した。同塾は、地球温暖化の最大の原因である二酸化炭素排出の約10%を占める自家用自動車からの減少を図るため、誰もが手軽に取り組むこ

とのできる「エコドライブ」のより一層の推進を図ることをめざして、2009年から開催しており、今年が11回目となる。今回は、関係団体やディーラー、経済同友会会員、そして国・県のからの職員の方17名が塾生として参加した。

はじめに、富山県会議所・糸岡正明専務理事から「先の台風15・19号に見られるように、超異常な気象異変の中で地球温暖化が世界的な問題となっている。今日は、温暖化防止の話や、エコドライブの具体的な方法についての話を聞き、実際に車を運転しての効果などを実感して、これからの運転にエコドライブを心がけられるよう期待する」との挨拶があり、塾が開講した。

今回、新しい講義内容として「エコドライブのための日常点検」について実車を使っての講義を行い、講師のわかりやすい説明が好評だった。また、エコドライブを実感する、燃費計測の実車走行では、まず「通常運転」で計測し、その後、エコドライブ運転技術の講義を受けての「エコ運転」で燃費の改善率を計測した。

緊張からか、エコ運転で燃費の改善が見られなかった塾生もいたが、平均で13％の燃費改善率となり、各自の成績表を見ながらのグループ討議では、運転の仕方でどんな違いがあるのかなど、活発な意見交換が行われた。

最後に全員に「修了証」が授与され、塾生からは「大変ためになった」「これからエコドライブに務めたい」などの意見が出され、大変有意義な「車塾」となった。

なお、当「車塾」は、日本自動車連盟富山支部の共催で、富山県、富山県警察本部、北陸信越運輸局富山運輸支局の後援を受けて開催された。

日本自動車会議所ホームページ　新着情報ランキング（2019.10/1～10/31）　Google アナリティクスより

	ページタイトル	ページビュー数
1	ダイハツ「ロッキー」２０年ぶり復活 東京モーターショー後、発売予定	18,402
2	経産省 消費増税時のポイント還元、自動車ユーザーにも恩典	3,324
3	国交省、「特定整備」の不安解消 事業継続の選択肢用意	2379
4	国交省、自動運転システム整備に認証制度を新設へ 名称「特定整備」に	2074
5	国交省、新たにエーミング作業も分解整備の定義に追加	1674
6	警視庁 外国要人の多数来日に伴う交通規制（即位の礼期間中の交通規制）	1543
7	特定整備 認証要件案を決定 国交省 電子制御装置を追加	1149
8	第５１回全国トラックドライバー・コンテストの出場選手が決定 全ト協	977
9	国交省、車検証をＩＣカードに ２２年度中に切り替え	904
10	第51回全国トラックドライバー・コンテスト 実施要領が決定	889
11	経産省、ＦＣＶの普及拡大へ 水素価格３分の１に、ＳＴ開設コストも半減	800
12	経産省、超小型モビリティ購入に補助金	764
13	欧州のＣＯ２排出規制強化、対応迫られる日系各社	614
14	トヨタ、新型リチウム電池開発	590
15	第20回 夢を運ぶトラックデザインコンテスト 神奈川トラック協会	545
16	日刊自連載「東京モーターショー 部品メーカー出展概要」（上）自動運転見据えた製品が目白押し	447
17	環境省、東京モーターショーにＣＮＦ車	389
18	国内主要モーターショーの開催日程	385
19	ＯＢＤ車検、エーミング未実施は不合格 スキャンツール機能拡充が不可避	367
20	安協 「反射材フェア2019」を10月19、20日、池袋サンシャインシティで開催	348
21	パナソニック、新戦略で車載事業へ再挑戦 電池は津賀社長が陣頭指揮	337
22	軽枠内で新車両区分 定員４人、最高時速６０㌔ 国交省が来年度	322
23	警察庁、昨年の交通事故 自動ブレーキ普及で追突が目立って減少	299
24	スマホをキー代わりに 来月中、施錠装置に認定方針 国交省	284
25	東京モーターショー会場拡大 お台場エリアまで	233
26	軽量化の有力技術、進化するマルチマテリアル	227
27	自動ブレーキ普及加速、昨年の装着率９割前後	215
28	旧車の純正補修部品“復刻” ホンダ、日産に続きトヨタも	212
29	高速道路を支える最先端技術「ハイウェイテクノフェア2019」を10月開催 高速道路調査会	209
30	第46回東京モーターショー2019 －東京ビッグサイトを中心に2019年10月24日に開幕	209
	総数（31番目以降も含む）	91,143